

問 豊川南部地区基盤整備の事業採択に向けての工程計画を問う。

市長 10月までに国県の事業計画書の審査を受け、11月に新規採択事業申請書を提出する予定。併せて事業計画概要の公告・縦覧、事業施工申請等、法手続き事務を進めていく。

問 排水機場の老朽化による具体的な対策及び豊川地区堤防整備の取り組みを問う。



豊川地区堤防

経済部長 排水機場については、早め早めの補修点検を行い、市の負担にならないよう、国県の補助金を活用し修理・整備を行っていく。また、豊川海岸保全事業については、国県が事業主体になるので、

予算措置を要望してまいりたい。

熊本県民体育祭の開催について

問 開催地としての態勢や各種目の成績向上策を問う。

市長 「絆を深め、未来へつなぐ 宇城県体」をスローガンに掲げ、「選手が来てすぐに試合ができること」を合言葉に準備を進めている。地元競技種目団体成績向上については、予選会等を開催し、選手選考を進めている。成績アップという課題を宇城市民みんなで乗り切ろうという思いである。

各支所の利活用について

問 各種団体からの申し入れ協議があつた場合の市の対応は。

総務部長 本庁に職員集約し空きスペースが相当出ているので、行政財産使用条例を制定する方向で進めている。

高田 幸夫 議員

農業集落排水事業の推進における優遇施策について

問 地域の声として「事業への同意はしたが、水洗化工事に多額の金額がかかりそうだし、加入をどうするか迷っている」との声がある。市では、改造工事費の助成等優遇措置も設定をされているが、加入率を上げるための金利政策をどのように考えているのか。

市長 指定金融機関にお願いし、安い金利をもつて、できれば無担保無保証借り出しができないかということで相談したいと思っている。

入札制度の改善について

問 一般競争入札について県内でも実施検討がなされているが、宇城市としてはいつ頃導入予定か。また総合評価方式も検討課題になると思うがどうか。

市長 入札方法にはいろいろあるが、費用面、事務の効

廃棄物最終処分場建設について

問 宇城市も市議会も市民の方々も建設反対で一致しているが、市長として反対の姿勢が揺るがないということを明言していただきたい。

市長 市民の安心・安全の生活を死守するため、市民の理解と支援を賜りながら、断固建設反対の決意が揺るがない旨を表明申し上げる。

坂本 順二 議員

職員の意識改革について

問 市長就任当初より言われていた職員の意識改革はすすんでいるか。

市長 職員としての使命感や総合的能力の向上を図るため、職場内研修を行っている。また、他行政機関や民間企業への派遣研修を行うなど、職員の意識を高め、創意工夫に満ちた組織体制への転換に大いに成果を上げている。市政を担う重要な当事者である職

率化を含め、宇城市にとって何が一番適しているか十分検討し競争性、効率性ある制度を確立し、今後とも公正な入札が保たれるよう努めてまいりたい。総合評価方式については、評価者の技術力の確保と説明責任、評価項目等、企業に与える影響など慎重に検討していくことが必要であり、今後も研究していきたい。

保育行政について

問 児童福祉法に市町村の責務を明記しているが、子育てに関する市長の基本的な考え方を聞きたい。

市長 良質な保育サービス等が提供できるよう多様な面で子育て支援策を講じており、更なる「安心して生み育てられる環境づくり・子育て支援策の充実」に取り組んでいるところである。

問 市長は公立保育園などを民営化するという方針を立てているが、なぜ今民営化なのか。

市長 民営化をするんだという方針に立ったということでは

員は民間企業と異なり、マンネリ化やぬるま湯感覚を一掃して常に鋭い問題意識を持ち、日々の行政運営を積極的に推進していくことを怠ってはならない。今後も市民の方々の意見や要望をしっかりと受け止め、信頼いただける行政を目指して、職員の意識改革に励んでいく。

不知火支所の空きスペース利活用について

問 不知火支所の空きスペースはどのような利用を考えているか。



今後の有効利用が期待される不知火支所

市長 検討委員会では、子育てから福祉、学校教育、そし

はない。メリットデメリット等の問題をこれから検討していくということである。ガイドラインを作成し、保育園や保護者、地域の方々に説明し納得を得て実質スタートという考えでいる。



芋植えをする園児たち（不知火保育園）

藤木 保 議員

戸馳大橋の改修及び第2大橋の架橋について

問 戸馳大橋は架橋から34年余が経過し、修繕、補修が必要である。中学生等の通学道でありながら、歩道もなく、大型車の重量制限も行われるなど非常に危険性が高い。ま

て生涯学習と相互的学習拠点として利用する計画案を取りまとめ、今後、より具体的な利用計画を策定するため、専門委員会での利用計画案を取りまとめ、その後関係団体などに説明し、意見を聞いた上で最終利用計画をまとめた。

環境問題について

問 松合地区の仲船溜まりは昨年しゅん濇工事が行われ一時きれいになったが、今年になりヘドロが堆積し臭いも酷くなった。今後どのような対応を講じるのか。

市民環境部長 現在調査を行っているが、悪臭の原因として家庭排水の一部汚泥化が考えられる。今後、既設住宅の合併浄化槽への普及を図ることによる未処理排水の改善と、国道からの進入路工事の早期完成をめざし、潮溜まりを浄化することによって放流先である内水面の海水流入の活性化等、関係部署連携を取りながら対策に臨みたい。

JR三角駅周辺整備事業及び三角港の整備計画について

た、地震や津波が発生した場合、避難路はこの大橋のみである。第2架橋の建設にどう取り組むのか。

市長 18年に現況調査、上部工及び下部工の補修補強の検討、落橋防止の検討等を行った結果、補修補強を行うか、架け替えを行うか、検討している。国や県、財政担当者とも十分協議して参りたい。

問 昨年度大学生等による「デザインシャレット21調査」が実施され、地域の人々は駅前開発がいつ動き出すのか大きな期待を持っているが、何らの動きもない。これらの計画は、単なる絵に描いた餅なのか。

企画部長 三角地区活性化事業提案検討委員会が組織され、活発な議論、提案がなされ、三角の活性化について真剣な取り組みが始まっている。問 調査研究報告書をまとめるだけでなく、具体化できる



海のピラミッド

市長 昨年12月に幻灯祭が行われた海のピラミッドを活用し、土曜の夜ごとにイベント等を開催する方向で検討している。今後、観光港や行政港としての活用に加え、海上自衛隊の寄港地にできないかと考える。西港については、開港120周年であり、世界遺産指定に向けてのシンポジウムを開催する予定である。